

Ep. 16

ネット時代の 博物館の役割

ネット社会と博物館

何かと議論も多い「ネット社会」ですが、私たちはもうインターネットから離れることはできません。ならば、この環境を使って、私たちに何ができるのだろうか……。自問自答を繰り返した結果の、私なりの結論です。

いま、ネット社会がもたらすさまざまな問題が指摘されています。顔が見えないがゆえに感情表現がエスカレートするとか、同じ考えを持った人としか交流せずにバランス感覚を失うとか。また、ネットでの出会いが陰惨な事件につながることもあり、やり切れなくなります。

一方、もうインターネットなしでは暮らせないのも事実。その有り難みが身に染みる場面も少なくありません。たとえば、何でも「すぐに調べられる」こと。昔なら図書館に通い詰めたような調べものでも、検索ボタンで一発。

中学時代、司馬遼太郎を読んだ時、「なぜこんなに細かいことまで書けるのだろう」と素朴な疑問を抱いたものです。その後、歴史作家は各地を歩き、大量の文献を取り寄せて事実関係を調べているということを知りました。

今の私たちなら、司馬遼太郎が1年かけて集めた文献を1時間で集められるかもしれませんね。

もっと容易に「次の世代に継げる」環境の構築を

ちょっと大げさな話になりますが。文明の進歩とは、先人の発見や考察を前提に「次のステップへと容易に進めるようになること」だと思います。であるならば、いま私たちが手にしているものを整理して残すことが、次の世代に対する義務と言えるのではないのでしょうか。

すなわち、博物館に課されている役割は、実に理にかなっている……ということになります。

インターネット時代のいま、博物館が次代に贈ることができる最大のプレゼントは、100年後も朽ちることのない「正しい情報」ではないのでしょうか。私たちが手にした知識や知

恵を、より容易に触れることができる仕組みを残すことが、私たちの役割なのでは……そんなことを考えています。

手前みそですが、MAPPSの最新情報を

現場の最前線でご活躍中の学芸員の皆様は、「英知の集積」を残し、継ぐためのお仕事に骨身を削っておられる。ならば、そこにかかる労力を少しでも減らせる道具を、できるだけ入手しやすい形で提供すること。

当社ではいま、「MAPPS」と名付けたプロジェクトを推進しています。「学芸員オンライン」の開設や、この「情報ファイル」の発行など、日常業務の余力の範囲ながらいくつかのアイデアを実践していますが、やっとその中核を成す事業を立ち上げることができました。

ASP/SaaSの技術を応用した収蔵品管理システム<I.B.MUSEUM SaaS>が、この11月1日、いよいよサービスを開始しました。主に予算の厳しい自治体への対応を目的に、低額な費用で資料(作品)管理を強化いただけるよう、極力コストを抑えております。このサービスで、1館でも多くのミュージアムにシステム導入を実現いただければと願っております。



正直に申し上げて、「MAPPS」に組み込んだ事業は、企業として大きな利益を得られるものではありません。ですが、博物館の情報管理支援は、それを度外視してでも「誰かがやらなければならない」状況に来ていると思います。

当社がもっと大きな会社なら……と夢想しても仕方ありません。とにかく邁進。これ一本の今日この頃です。